

がくしゅうかだい（2ねんせい）



【こくご】けいかくをたててすこしずつとりくんでいきましょう。

<べんきょうすること>

◆「かんさつ名人になろう」(きょうかしょ 52～57 ページ)にとりくみます。いきものやしよくぶつをかんさつして、さいごにきろくする文しょうを書くべんきょうです。

①55 ページの「ミニトマトをかんさつした文しょう」を読みます。下に4つのポイントが書かれているので、たしかめましょう。

②56 ページの「ミニトマトをかんさつした文しょう」を読みます。55 ページでべんきょうした4つのポイントをさがしてみましょう。

③自分がかんさつしたことを文しょうにします。かんさつしたことをくみあわせたり、つなげたりしながら、文しょうにしてみましよう。また、かんたんに絵もかいてみましよう。

(前回のメモ)

きんぎよ
六月〇日 晴れ

- ・あかいろとくろいろがある。
- ・口をばくばくさせている。
- ・ぼくの手のグーぐーの大きさを、ぼくに話しかけているみたいだ。

(きろくする文しょう)



六月〇日（）晴れ
きんぎよをかんさつしました。
色は赤と白です。
ぼくの手のグーぐーの大きさは、口をバクバクさせていて、ぼくに話しかけているみたいです。とってもかわいいです。

※このれいは、メモし

たじゅんに書かずに、色→大きさ→気づいたこと→思ったこと のじゅんに書きました。書くじゅんばんもかんがえてみるといいですね。

※本（ずかんなど）やしやしんをつかっている人は、それを見ながら絵をかいてもいいです。

◆あたらしいかん字「回」「歩」（61 ページ）に、とりくみます。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

・お子さんの書いた文章を読む際に、「よく観察できている」「様子が伝わってくる」という表現がありましたら、「〇〇のところがよく伝わるね」など、良かったポイントを伝えていただくと、文章力の向上につながります。

・付箋を使った場合は、メモした付箋を並べてみて、「どの順に書いたらいいか」を聞いてみてください。なぜその順にしたのかを話すことができれば、とても素晴らしいです。

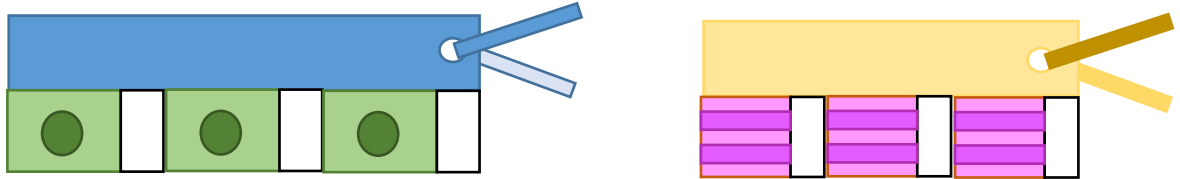
さんすう
【算数】

「※」は勉強^{べんきょう}するときの先生からのアドバイスです。

<学習内容>

◆長さ（長さのあらわし方）（きょうかしょ 52～56 ページ）

同じ長さの しおりを 作るために、
けしゴム 3 こ分の長さで 作ることに になりました。



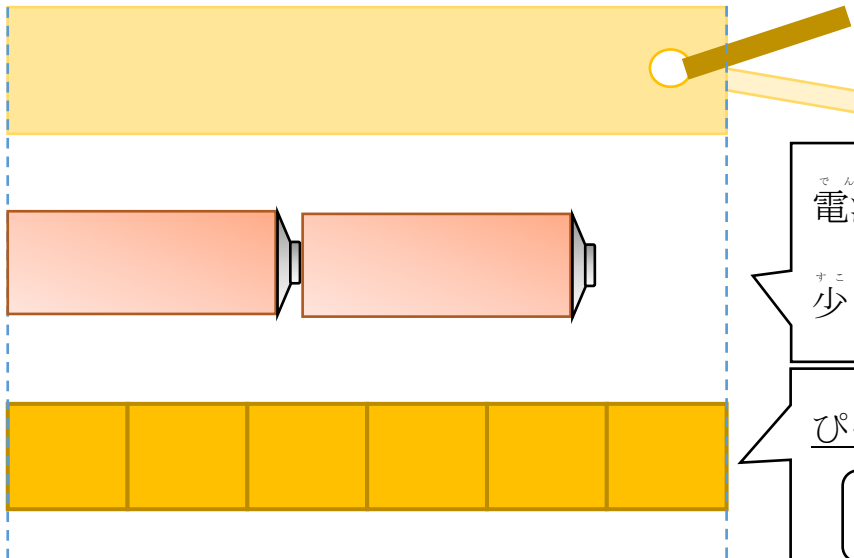
あれ？
3 こ分にしたのに 長さがちがうよ？

じ長さの けしゴム をもっていない からだね。



どうすると、しおりの長さを ほかにの人に つたえられるのかな？

下の しおりの長さを いろいろなもの をつかって あらわそう。



電池 こ分より

少し長い。

ぴったりブロック

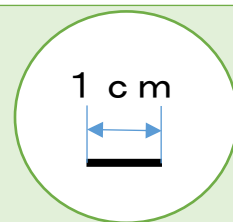
ぶん

でも、みんながいつも ブロックを もっているとは かぎらないよ。

長さを いつでも だれにでも わかる あらわし方を知ろう。

※長さの たんい 右の長さは 1センチメートルです。

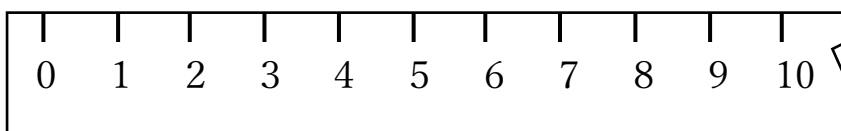
1センチメートルは1 cmと書きます。



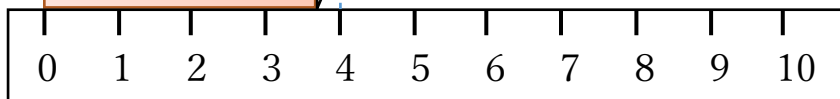
しおりの長さは

1 cmの ぶん

cmです。

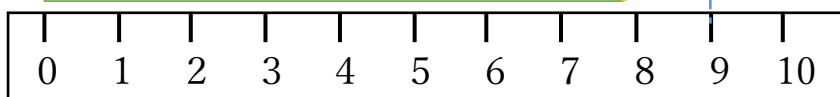


<れんしゅうもんだい①> 長さは それぞれ 何cmでしょう。



(1) 電池は

cm



(2) えんぴつは

cm

<れんしゅうもんだい②>

手のゆびをひらいて、10 cmの長さを つくりましょう。
また、10 cmくらいのを 見つけましょう。

<きょうの 勉強で、わかったことや、きづいたこと、
おもしろかったところを、おうちのひとに お話ししてみよう。>

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆長さ（教科書 P52～56）

・長さについての感覚を豊かにするには、長さを測定する前に、長さの見当をつけることが効果的です。<れんしゅうもんだい②>のように、ものの長さの見当をつける活動を大切にしてほしいと思います。

【たいいく】

けがをしないよう、まわりをよくたしかめてとく組みましょう。

<べんきょうすること>

※動画を見られる場合は、右のQRコードを使ってください。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/shido/nawatobi.html>



◆「なわとび」にとりくみましょう。

ひとつずつくりあしていくと、2じゅうとびができるようになりますよ。

○まえとびのやりかた

○リズムのれんしゅう



こつは、わきをしめて手くびをはやくまわすことです。わきに本をはさんでいるつもりでとびましょう。また、つまさきでちやくちすると、じょうずにとぶことができます。30びょうで70かいくらいとべるようになると、2じゅうとびができるようになるといわれています。

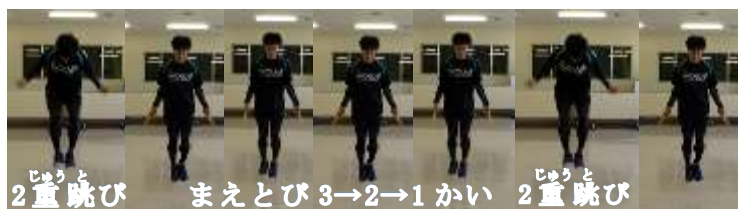
なわをもたずに、2じゅうとびのリズムをおぼえます。とんだときに、むねのまえで手を2かいたたいたり、ふとももを2かいたたいたりします。

○なわまわし



なわをはやくまわすためには、手くびのうごかしかがたいせつになります。かたてずつ、さゆうりょうほうやってみよう。

○「2じゅうとび→まえとび」のくりかえし



2じゅうとびと、まえとびをくみあわせませう。さいしょは2じゅうとびをするときに、ひざをまげてたかくとびませう。つぎに、まえとびを3→2→1かいとへらしていきませう。できたら、れんぞく2じゅうとびにちようせんしてみませう。

◆れんぞくでなんかいとべたかや、30びょうでなんかいとべたかをかぞえてみませう。

※よゆうがあれば、まえにしょうかいしたとびかたなどにもちようせんしてみませう。くりかえしとりくめると、じょうずになりますよ。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

跳んだ回数を数えてあげたり、こつをうまく生かして跳んでいる姿を褒めてあげたりして、継続して取り組む意欲へとつながるよう声をかけてあげてください。